



あまぬまだより

<http://www.suginami-school.ed.jp/amanumashou/>

杉並区立天沼小学校

次世代を育てるキャリア教育

～Eテレ『エデュカチオ』での放映から～

副校長 一ツ柳 秀美

『エデュカチオ(educatio)』とは「education(教育)の語源で「引き出す」という意味のラテン語。子どもの力を引き出すためのヒントを発信する。」ことをねらったEテレの番組です。5年生のAKP(あまぬま会社経営プロジェクト)の授業が6月7日(土)に放映されました。本校が学校支援本部と連携しながら取り組んできたキャリア教育に対し『文部科学大臣表彰』を受けたことを契機に、『エデュカチオ』で取り上げられることになったのです。初めての土曜授業の4月26日がメインの取材でしたが、事前・事後の電話の取材や別撮りのインタビューや撮影をもとに、1年生から6年生までのカリキュラムがコンパクトに紹介されていました。

「作品は自分のためだけど、商品はお客様のことを考えて作ったものというところが違います。『お客様』という相手意識に立つことが会社経営の条件であり、キャリア教育の目指すところです。

1. 2年生は6月14日の『天沼祭り』で、お店を企画し、多くのお客様をもてなしました。「〇〇に来てください。楽しいですよ。」と大きな声で宣伝する姿は、「コミュニケーション能力」を身につける第一歩になりました。2年生の感想に「お客さんが面白そうな顔をしていたので、自分も楽しくなってきました。」とあり、相手意識が芽生えているのが分かりました。また、4年生は、6月4日に天沼地域を「入りやすく、見えにくい」視点でフィールドワークし写真を撮りました。自分だけでなく住みやすい地域のためという視点をもつことがねらいです。また、5年生は、商品開発に向けて様々な意見を一つに集約する作業を通して協調性を培い、チーム力を身につけていきます。「実際にお金を集めて、自分たちが作った商品が売れたら自己肯定感が高まるでしょうね。」と東山紀之さんがコメントされていたようにAKPの取り組みを通して大きく成長し、

最高学年になります。6年生では、裁判傍聴や職業調べがキャリア教育活動になっていますが、入学式前日からの準備を始め新入生のお世話、縦割り班のリーダー、委員会・クラブでの中心的役割等、学校生活そのものがキャリア教育であり、その一つ一つの成果が天沼小の歴史を作っているという自覚が芽生えています。

尾木直樹さんが「ここまで取り組んでいる学校はないのではないのでしょうか」と発言されていたように、各学年とも年間を通してゲストティーチャーや地域の商店会にオファーをしながら推進できるのは、学校支援本部のおかげです。

卒業式では、証書授与の前に卒業生一人一人が未来に向けての決意をステージの上で述べました。「人のために役に立ちたい!」など社会貢献の意識が芽生え、具体的に目標を決めて、あきらめずに努力していこうという決意が感動を呼びます。「どんなときでも笑顔で明るいお母さんのような人になりたいです。」家庭でのキャリア教育の成果だと感動しました。何よりも家族の中での対話や両親の生きる姿・背中から仕事の大変さ・楽しさ・生きがいを伝えていくことが大切だと考えます。

天沼小学校には、背中を見て学ぶ大人がたくさんいます。先生達を始め、事務室や用務主事室、給食調理室で働く様子は、学校生活の中で目にします。また、暑い日も寒い日も子どもたちを見守っていただいている警備員さん、交通安全指導員さん、朝遊びの町会の方々、あまぬまワンダラーズ、学校運営協議会委員、お母さん達のPTAの役員さん、おやじの会のお父さんたち。日々の学校生活そのものがキャリア教育と言っても過言ではありません。

自分の背中を自信をもって見せられる大人になるために、積極的に連携し、大人同士の絆も太く、強くしてまいりましょう。

……今月の目標……

生活

後片付けをしっかりとしましょう
(1学期の反省をしましょう)

保健

暑さに負けず元気に過ごしましょう

給食

好き嫌いをしないで食べましょう